

## 平成23年度 【大学振興会研究奨励補助】研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ ヨシザワ カズコ  
氏名 吉澤和子

研究期間 平成23年度

研究課題名 食育からみた思春期におけるファーストフードの摂取量の評価

### 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	吉澤和子	生活科学部	講師
研究分担者			
研究分担者			

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

WHOは心疾患などのリスク回避にはトランス脂肪酸の摂取量を、総エネルギー摂取量の1%未満を推奨している。一方、食品安全委員会の報告では、日本人一人当たりのトランス脂肪酸摂取量は平均で0.3%であり、危険レベルではないとされている。しかし、数値は平均値であり、近年、食が多様化してきている日本では、トランス脂肪酸の摂取量は個人差が大きく、WHOの基準値を上回る人がいる可能性がある。本研究では、ファーストフードや菓子類の摂取量が多いと思われる高校生に注目し、トランス脂肪酸摂取量及びファーストフードに関する食行動・意識との関係を把握することを目的とした。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

調査対象者は、愛知県在住の女子高校生360名を対象とし、2011年8月21日～9月上旬にかけて食事調査及び食に関する行動・意識についての2種類のアンケート調査を実施した。食事調査には、妥当性と再現性が確認された判定量食物摂取頻度調(SFFQ)を用いた。この調査では、各食品の過去1年間の平均摂取量を記入してもらい、一日当たりの総エネルギー摂取量を算出した。また、別のアンケート調査票は、食行動・意識に関する質問及びトランス脂肪酸を含む食品リスト、目安量、摂取頻度で構成されている。食品リストには内閣府が開示している情報をもとに、トランス脂肪酸を多く・比較的多く含む食品としてファーストフード22項目を選択した。質問票は自記入式質問票で、回答方法は選択式を用いた。トランス脂肪酸の摂取量の計算は、内閣府食品安全委員会「平成18年度食品安全確保総合調査「食品に含まれるトランス脂肪酸の評価基礎資料調査報告書」(平成19年3月)及び米国医薬食品局の食品成分表(USDA)を参考にした。

共同研究者：本学生活科学部 一色忍助教、卒業研究生 武田 知穂 田代 晴子 小池 真緒

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

インフォームドコンセントを得た 154 名 (回収率 43%) のうち、食物摂取頻度調査票から算出したで総エネルギーが 1300～4000 kcal 以内の 110 人のデータを統計解析に用いた。計算の結果、一人当たりのトランス脂肪酸摂取量の平均値は 0.38%、最小値 0.03%、最大値 1.09%であった。1%以上は 2 人が該当した。1 人 1 日当たりの食品別トランス脂肪酸摂取量の平均値は、牛乳 0.16g、パイ 0.09g、デニッシュ 0.09g、アイスクリーム 0.07g、マーガリン 0.06g、クッキー 0.05g、菓子パン 0.03g、食パン 0.04g、チーズ 0.04g、ケーキ 0.03g、バター 0.02g、マヨネーズ 0.02g、コーン系スナック菓子 0.01g、ビスケット 0.01g、ポテト系スナック菓子 0.01g、M ポテト 0.03g という結果であった。ファーストフードの購入有無 (複数回答可) については、よくある 24%、時々ある 52%、ほとんどない 14%、全くない 8% となった。ファーストフードやお菓子の購入理由 (複数回答可) としては、店が近くにあるから 18%、安いから 9%、美味しいから 25%、便利だから 18%、量的に満足だから 25%、その他 4% という結果であった。トランス脂肪酸の認知状況については、知っている 24%、聞いたことある 4%、全く知らない 34% となった。「トランス脂肪酸摂取量」と「トランス脂肪酸の認知状況」の 2 つのグループの摂取量の平均値の比較、t-検定では有意差はみられなかった ( $p < 0.216$ )。食行動の質問について「一カ月の小遣いの金額」と「個人のファーストフード購入の有無」の  $\chi^2$  検定では有意差はみられなかった ( $p < 0.07$ )。「家族によるファーストフードの購入有無」と「個人でのファーストフード購入有無」の  $\chi^2$  検定では有意差がみられた ( $p < 0.006$ )。本研究の調査対象者は無作為に選ばれたのではなく、回収率は 43% であった。本研究の女子高生のトランス脂肪酸の平均的摂取量は食品安全委員会が報告している日本人 1 人当たりのトランス脂肪酸摂取量の平均値 0.3% より高い、0.38% であるが、調査に参加した人は健康志向が高いためバイアスの可能性がある。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを 1 以上 8 以内で記載)

①ファーストフード	②トランス脂肪酸	③食行動	④食物摂取頻度調
⑤アンケート調査	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本研究の成果は、平成 24 年度中に論文投稿を予定している。